

放牧を生かした酪農経営

多田 匡 宏

多田牧場 上川郡東神楽町八千代1区 〒071-1577

はじめに

東神楽町は、上川管内のほぼ中央に位置し、北西は、旭川に隣接し、南東にかけて神楽町、美瑛町、北東にかけて忠別川を隔てて東旭川、東川町にそれぞれ境を接し、東西22km、南北6kmのさつまいも形で、当牧場は、標高230m旭川市の南東の境に接し、丘陵地帯に位置している。開拓者として当地に両親は入植〔昭和11年〕し、民有未開墾地を6.7ha購入し3年がかりで開墾した。その後、20年間に雑穀などを作付けしていた。義務教育を卒業と同時に、7人兄弟の長男として親の家業に取り組んだ。

ほとんどの土地が傾斜地で、馬耕による片耕しかできず、しかも砂礫土であつて場所によっては河原にプラオをかけている様なところもあつた(昭和31年)。

貸付牛1頭を導入しその後、搾乳牛を購入し、畑作、酪農を複合経営を始めた(昭和32年)。土地改良事業に着手し、雨が降ると表土が流出、耕作不可能な土地ができてしまい、村営事業により排水路を設置する事になった。弟が酪農経営をやつてみたいとのことで、共同経営を考えるに至つ

た。

農業構造改善事業に基づいて、昭和40年4月に5戸で農業生産組合法人を組織し経営を開始した(代表 多田菊蔵)。設立当時は、7頭収容の牛舎しかなく補助事業により50頭収容できる牛舎建設を計画した。然し、丘陵地の狭い沢のため敷地が充分にとれず、町道の一部を移設し整地するなどして、用地確保を行った。とても大変だった。トラクターは共同利用の中で導入された。この組合も構成員の移動があり、その後を引き継ぎ苦難の道を歩んだ。

乳牛の方も推進資金を利用して、34頭も導入するなど多額の投資になったが、飼養頭数も急激に増加し経営は軌道に乗った。

昭和51年9月4日の晩、施設完備された50頭牛舎が原因不明の出火により全焼したが、幸いにも乳牛の殆どが夜間放牧されていたので、4頭の焼死で免れた。施設には、大きな損失を被った。搾乳牛は、全頭、畑中牧場の牛舎へ移動し、その施設で搾乳を始めることができた。その後、直ちに復旧にかかり、10月31日に完工した。今現在に至つている。

多田牧場の概要

1. 所在地

上川郡東神楽町八千代一区

2. 経営基盤

飼養頭数(頭)		牧草地面積(ha)		畑面積(ha)		労働力(人)	
成牛	育成牛	所有地	借入地	所有地	借入地		
65	60	43	3	飼料畑 13.5 畑地 8.5	畑地 3	男	3名
						女	2名

3. 施設・機械

畜 舎	トラクター
583m ²	5台
162m ²	

〈機械〉 牧草作業機 一式 畑作作業機 一式
 〈施設〉 乾草舎 388m², 機械舎 291m²
 車 庫 291m², 牛 舎 326.7m²
 育成舎 239m²

4. 平成10年度計画

生乳販売量	個体販売頭数
500トン	15頭

5. 経営土地の利用形態

	平坦地	傾斜地	合計
採草専用地	21 ha	10 ha	31 ha
放牧専用地	15 ha	15 ha	30 ha
畑作用地	24 ha		24 ha
林地		20 ha	20 ha
合計	60 ha	45 ha	105 ha

7. 歴史

昭和11年 開拓者として当地に両親入植。民有未墾地6.7ha開墾。20年間雑穀などの作付けを行う。

昭和32年 貸付牛1頭導入。畑作酪農の複合経営を始める。

昭和40年 農業構造改善事業に取り組む。50頭牛舎設置。農事組合法人設立。乳牛34頭購入。借入地、草地の確保。機械の共同利用。

昭和44年 1月よりバルククーラー使用。タンクローリーによる収乳が実現。1kg当たり1円50銭

昭和51年 牛舎全焼。組合資金2千万円を借入し、復旧。

昭和55年 機密サイロ建設。自己負担金4,200,000円 200トン(空料)
 中小企業退職金共済事業団に加

入。自給飼料生産向上特別事業により機械の導入。共同利用。

昭和59年 八千代地区灌排事業推進期成会に同意。

昭和61年 道営畑帯総合土地改良事業。15ha自己負担900万円

昭和63年 農業後継者として多田光宏(長男)が酪農学園大学を卒業し構成員に加わる。傾斜地で礫が多く、機械作業が困難。山林にする。(3ha)

平成元年 畜産近代化リース協会事業
 パイプライン MPH51S-C
 オリオン 3,240,000円

平成3年 畜産近代化リース協会事業
 トラクター MF399-4C
 マッセイファーガソン 6,696,000円

平成4年 畜産近代化リース協会事業
 バルククーラー BRS1700HE
 オリオン 3,090,000円

平成5年 乾草舎建設。10.8×36m(120坪)
 乾草収穫作業は、コンパクトベール作業からロールベール作業に変える。50%の補助事業で取り組む。事業費3,500,000円

農事組合法人代表者 多田匡宏に変わる。

平成6年 ボーリング工事を実施。4インチのサイズで183mボーリングする。事業費3,400,000円

平成8年 八千代地区 緊急畑総地整備事業。9.5ha 暗渠実施。自己負担5%

平成10年 忠別地区灌排事業を実施。第2ファームポンド用地買収。損失補償(山林、木、土地代、その他)面積 8,232.75m²
 事業費 4,115,067円